

全教員が参画した 学力向上に向けた検証改善サイクルの確立を目指した取組

標津町立川北小学校 学級数9 (校長 丹野 聡)

I 本実践の概要

全国学力・学習状況調査の結果から、学校の課題を全教員で共有するとともに、教務部は系統性を意識した授業づくり、研修部は言語能力の育成を踏まえた授業改善を提案し、ほっかいどうチャレンジテストを活用した検証を通して、全教員が主体的に検証改善サイクルの確立を目指す取組を行った。

II 本実践の内容

1 自校採点をもとにした本校の実態把握と改善策の検討

全国学力・学習状況調査実施後、自校採点を全教員で実施し、主題の趣旨を確認するとともに、児童の解答状況を把握した。また、教務部を中心に分析した結果、目的や意図をもって書いたり、要約したりすることに課題が見られたことから、学習指導要領と照らし合わせ、各学年で育成する資質・能力を確認し、全教員が小学校6年間を見通した授業づくりを行うことを共有した。

目的を整理して、中心となる語や文を見つけ要約する。(28.6%)

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
読者の視点から、文章の趣旨と中心となる語や文を見つけ要約する。	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	ア 段組相互の関係に留意しながら、考えとそれを支える理由や事柄との関係などについて、叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえる。文章全体の構成を捉え要約を把握すること。
登場人物の視点から、文章の趣旨と中心となる語や文を見つけ要約する。	イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	イ 登場人物の視点から、文章の趣旨と中心となる語や文を見つけ要約すること。
文章の中の重要な語や文を見つけ要約する。	ウ 文章の中の重要な語や文を見つけ要約すること。	ウ 目的を整理して、中心となる語や文を見つけ要約すること。	ウ 目的に応じて、文章の趣旨と中心となる語や文を見つけ要約すること。

出題は3・4年生、5・6年生の内容ですが、1・2年生の内容にも指し示す事項を明確にして授業作りをしていければと思います。

【学習指導要領で系統性を確認】

2 分析に基づく「問題解決的な学習の基本的な流れ」を踏まえた授業改善

研修部は、調査結果の分析を踏まえ、言語能力の育成を図ることが課題の解決につながると捉え、授業改善に取り組んでいる。言語能力の育成の場面をこれまで本校で活用していた「問題解決的な学習の基本的な流れ」に位置付け、授業改善策の一つとして各教科等で取り組むとともに、各教科等の特質に応じた言語活動の充実を図っている。

発問の内容・仕方をよく吟味します。教師の発問は児童の思考を促し深めるための大切な要素です。また、発問されたことに整合するようにつなげる力をつけさせることも言語能力の育成に繋がります。

令和3年度 問題解決的な学習の基本的な流れ

①【問題発見】→【問題設定】→【問題解決】→【振り返り】

②【問題発見】→【問題設定】→【問題解決】→【振り返り】

③【問題発見】→【問題設定】→【問題解決】→【振り返り】

④【問題発見】→【問題設定】→【問題解決】→【振り返り】

⑤【問題発見】→【問題設定】→【問題解決】→【振り返り】

⑥【問題発見】→【問題設定】→【問題解決】→【振り返り】

⑦【問題発見】→【問題設定】→【問題解決】→【振り返り】

⑧【問題発見】→【問題設定】→【問題解決】→【振り返り】

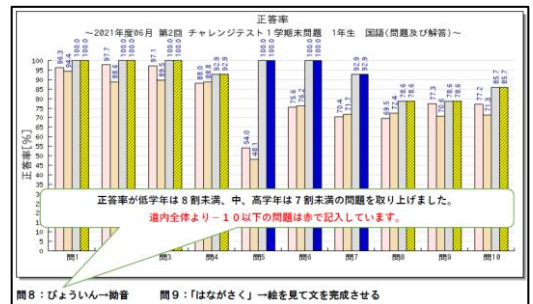
⑨【問題発見】→【問題設定】→【問題解決】→【振り返り】

⑩【問題発見】→【問題設定】→【問題解決】→【振り返り】

【言語能力の育成の視点を踏まえた授業改善】

3 ほっかいどうチャレンジテストを活用した改善策の成果と課題の検証

ほっかいどうチャレンジテストを活用し、これまでの改善策が効果的かどうかの検証を全学年で行った。全道平均と正答率を比較するだけでなく、定着に至っていない要因を明らかにするとともに、改善策の成果と課題について協議した。協議の結果、課題の解決を図るため、知識の理解、定着だけでなく、資料やグラフから新たな知識を得たり、自分の考えを言葉で説明したりする学習活動を充実させることを確認した。



【ほっかいどうチャレンジテストの結果を用いた検証】

III 本実践の成果と課題

- 言語能力の育成を目指した「問題解決的な学習の基本的な流れ」を全教員で共有したことにより、自分の考えを言葉で説明する学習活動の充実等、同じ方向性を持ち授業改善に取り組むことができた。
- 学習指導要領で系統性を確認し、全学年のほっかいどうチャレンジテストの結果から成果と課題について協議したことにより、小学校6年間を見通して指導することができた。
- 児童一人一人に応じた手立てを工夫できるよう、S-P表を活用した分析を含め、児童生徒一人一人の学習状況の把握をきめ細かく行い、「個別最適な学び」の充実を図る必要がある。